令和5年度福島区区政会議 第1回保健福祉・総務部会 会議録

1 開催日時 令和5年9月15日 19時00分から20時30分

2 開催場所 福島区役所 6階 会議室

3 出席者の氏名（敬称略）

[委員]

三木 一誠（議長）、小笠 千恵子、中村 元彦、宮本 雪代、山口 敦子

[オブザーバー]

小西 克彦、猫島 義明、橋本 有人、矢山 英夫

[助言者]

太田 勝己

[区役所]

深津 友剛（区長）、北野 紀子（副区長）、谷口 浩文（企画総務課長）、澤田 卓士（企画推進担当課長）、宮崎 毅（窓口サービス課長）、吉井 徹（保健福祉課長）、麦田 真希子（子育て教育担当課長）、川野 武彦（生活支援担当課長）、栗信 雄一郎（保健担当課長）

4 委員に意見を求めた事項

- （1）令和5年度福島区政の取組みなどについて
- （2）福島区の地域福祉に関する検討状況報告について
- （3）その他

5 配布資料

添付のとおり

谷口： 定刻になりましたので、ただいまから、令和5年度福島区区政会議、第1回保健福祉・総務部会を始めさせていただきます。本日は、皆様ご多忙のところご出席いただきましてありがとうございます。本日の進行役を務めさせていただきます、福島区役所、企画総務課長の谷口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、座って進めさせていただきます。早速ではございますが、開会にあたりまして深津区長からご挨拶を申し上げます。

深津： 皆様、こんばんは。区長の深津でございます。本日はお忙しいところ、夜分お疲れのところ、福島区区政会議、保健福祉・総務部会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本日は第1回の部会ということで、令和5年度におけます福島区の取組を中心にご説明させていただきたいと思っております。また、皆様ご存じのことかと思いますが、この場にお集まりの委員の皆様の任期が9月末となっておりますので、このメンバーでご議論いただく機会は今日で最後ということになります。非常に残念でございますけれども、今夜はそのような意味合いも含めまして、福島区政に対するご意見・ご要望だけでなく、福島区として今後取り組むべき課題や具体的な施策のアイデアなど、皆様からたくさんのお声を頂戴できれば幸いです。

私ども福島区役所といたしましては、これからもあらゆる機会をとらえまして、区民の皆様の声に耳を傾け、今後の区政の運営・改善に生かしてまいりたいと思っております。本日ご出席の皆様の忌憚のないご意見を頂戴いただきますようお願いいたします。冒頭のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

谷口： 本日の保健福祉・総務部会ですが、委員の定数7名のうち、現時点で4名の方にご出席をいただいております。区政会議の運営の基本となる事項に関する条例に定める委員定数の2分の1以上の出席を満たしており、会議が有効に成立していることをご報告させていただきます。

次に、助言者として大阪市議員の方にご出席をいただいておりますので、ご紹介させていただきます。太田議員でございます。

太田： こんばんは。よろしくお願いいたします。

谷口： 次に、オブザーバーとしてご出席いただいております皆様をご紹介させていただきます。大阪府議会議員の橋本議員でございます。

橋本： よろしくよろしくお願いいたします。

谷口： 大阪市福島区社会福祉協議会会長、矢山様でございます。

矢山： こんばんは。よろしく申し上げます。

谷口： 福島区地域振興会会長、小西様でございます。

小西： こんばんは。よろしくお願ひいたします。

谷口： 大阪市コミュニティ協会福島区支部協議会会長、猫島様でございます。

猫島： よろしく申し上げます。

谷口： お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。なお、大阪市議員の広田様につきましては少し遅れているようですので、またご到着しましたらご紹介させていただきます。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。令和5年度福島区区政会議、第1回保健福祉・総務部会の次第以下ですね。資料1として、福島区区政会議、保健福祉・総務部会委員名簿とその裏面に座席表。次に資料2として、福島区区政会議、第1回全体会でいただいたご意見と対応方針一覧。資料3としまして、令和5年度福島区の主な事業（保健福祉・総務部会）。資料4としまして、令和5年度福島区運営方針。資料5としまして、令和5年度福島区運営方針、経営課題ごとの取組み。最後に資料6としまして、福島区の地域福祉に関する検討状況報告でございます。配付資料は以上でございますが、不足等はございませんでしょうか。よろしゅうございますかね。

次に、区政会議及びその会議録は、条例により公開・公表が基本と定められておりますので、ご了承のほどよろしくお願ひいたします。また、本日撮影の写真は区役所の広報に使用させていただくことがありますので、併せてご了承いただきますようお願いいたします。なお、議事録作成の関係上、ご発言の際はマイクをご使用いただきますようよろしくお願ひいたします。

それでは、ただいまより議事に移らせていただきます。以後の議事の進行につきまして、三木議長をお願いしたいと存じます。三木議長、よろしくお願ひいたします。

三木： 皆さん、こんばんは。三木でございます。この後の議事の進行を務めさせていただきますので、よろしくご協力をお願いいたします。

まず、最初の議題ですけれども、令和5年度福島区政の取組みなどについてとなっております。議題について事務局より説明していただき、皆様のご意見を伺っていきたく存じます。それでは、よろしくお願ひいたします。

澤田： それでは、私から令和5年度福島区政の取組みなどについてご説明いたします。お手元の資料ですが、資料2をご覧くださいませでしょうか。資料2ですが、福島区区政会議（第1回全体会）、今年6月に開催いたしました会議でいただきましたご意見と、そのご意見に対する対応方針をまとめた資料となっております。本日は、この資料の中から、保健福祉・総務部会に関連する項目についてご説明させていただきます。

資料の一番左側に番号という欄がありますが、こちらの2点目、山口委員からいただいたご意見についてでございます。「経営課題3『次世代を元気に育むまちづくり』の小中学生の体力向上事業として、いろいろな対策を実施しているが、乳幼児期に運動習慣がない子に小学生になったから運動しようと言ってもなかなかできないものである。小中学生の体力向上のためにも、乳幼児期に学ぶ基本的な生活習慣に加え、運動する習慣も学べるような取組みをしたらどうか」ということをご意見をいただいております。その右側ですが、会議当日の福島区役所の回答としまして「小さいころから食生活や運動の習慣をしっかりと身につけていってほしいので、今後、健康教育担当と一緒に検討していきたい」ということで回答させていただきました。改めまして、一番右側、対応方針を説明させていただきます。「乳幼児期にしっかりと体を動かして運動に親しむ『運動遊び』については、3歳児健診で配布している冊子の中で既に啓発しておりますが、これ以外にも会場内でポスターを掲示するなど、さらに意識づけができるような手法を検討してまいります」ということで、今後取組みを進めてまいります。

保健福祉・総務部会に関する項目が2番のみ、1点だけだったのですが、この資料につきましてちょっと補足説明、資料の修正をした箇所がございますのでその点をご説明させていただきます。番号6番です。最後のページになるのですが、中村委員からいただいたご意見ですね。ご意見内容ですが「津波が発生した際にたくさんの住民が亡くなる可能性があるが、遺体安置所はどこを想定しているのか。その場所が水浸しになっている場合は、どこに安置するのか」ということで、会議の中では「遺体安置所は区民センターを想定している。また、区民センターに安置できない場合は、スポーツセンターに安置する」ということで答えさせていただきます。改めましての対応方針ですが「遺体安置所という特殊な対応のため区民センターを想定しています。浸水が引いた後、清掃をした後収容することとなりますが、被災状況によって開設しがたい場合は警察や消防と協議・連携して他の施設を検討することとなります」ということで本日お配りしています。その対応方針の中で、清掃をした後という表現があるのですが、先にお送りさせていただいていました資料の中で、除染・清掃という書き方になっております。除染というのが放射能を減らすという意味がある言葉でして、大阪市としては特に放射能の被害を想定しておりませんので、その部分を削除するというかたちで修正させていただきますのでその点ご了承願います。資料2については以上となります。先ほどの対応方針に関しましてのご意見等については、また後ほど、資料3とまとめてよろしくお願いたします。

続きまして、資料3をご覧ください。令和5年度福島区の主な事業、保健福祉・総務部会

ということで、今年度の事業の取組み状況についてご説明させていただきます。

最初のページが、全体の状況となっております。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたことにより、区役所や地域においても様々な事業を実施できるようになってきています。また、大阪・関西万博の開催まであと1年半であるので、様々な事業の場を活用して万博への機運を盛り上げてまいります。今回の部会では、今年度の運営方針に係る各事業の進捗状況を報告します。本報告内容に加え、令和6年度の福島区事業計画案の策定に向けて委員の皆様のご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

では、具体的な事業内容の説明に戻させていただきます。3ページ目をご覧ください。次世代を元気に育むまちづくり（子育て関連施策の充実）についてでございます。「子育てに対する負担感・疲労感・不安感の軽減のための『にこにこ広場』『授乳相談』『親子の絆づくりプログラム赤ちゃんがきた！』等や、母親の健康づくりのための『美ママ講座』、親子が交流できる『赤ちゃん広場』等の子育て支援事業を実施しています」ということで、計画している事業を順調に進めております。4ページをご覧ください。こちらも次世代を元気に育むまちづくり（教育関連施策の充実）についてです。「運動への関心を高めるためにプロのスポーツ選手を学校に派遣するゲストティーチャー派遣事業を、中学校は毎年、小学校は毎年4～5校ずつ実施しています。また、基礎学力向上のために、中学生及び小学5・6年生を対象に、課外学習事業（TERACO）を区民センターで週2回実施しています。その他、不登校の課題を抱える学校を支援していきます」。

次のページをご覧ください。誰もが自分らしくいきいきと暮らせるまちづくり（地域福祉関連施策の充実）についてです。「区内10地域に設置されている身近な相談窓口『みんなの相談室』、ちょっとした困りごとを有償ボランティアがサポートする『福島お助けネットワーク』について、さらなる事業周知に努めながら実施しています。また、地域でのつながりづくり、支え合い・助け合いの意識啓発・情報発信に取り組んでいます」。次のページが最後になりますが、こちらも誰もが自分らしくいきいきと暮らせるまちづくり（健康関連施策の充実）となります。「生活習慣病の予防とがんの早期発見、早期治療に非常に重要な健康診査や各種検診の啓発並びに受診率の向上などを目的に、区役所や地域における健康講座の開催と広報誌、SNSなどによる各種案内の充実を図っています。また、介護が必要な状態になることをできる限り予防し、地域でいきいきと自分らしい生活を送ることができるよう、区役所や地域における各種講座の開催並びに百歳体操の普及と継続支援に取り組んでいます」。

以上が、今年度の福島区政の取組みなどについて、区役所からのご説明となります。ありがとうございました。

三木： どうもありがとうございました。それでは、ただいま説明のありました内容につきまして意見交換をしていきたいと存じます。質問やご意見のある方は挙手をお願いいたします。

ます。お名前をおっしゃってからご発言くださいますようお願いいたします。何かご意見・ご質問等ございませんでしょうか。中村委員、お願いします。

中村： 4ページのTERACOについてお聞きしたいんですけども、中学生及び小学5・6年生を対象に区民センターで実施とありますけれども、実施母体はどこになりますでしょうか。

麦田： 実施母体とおっしゃるのは事業者ということですか。今協定を結んでいる事業者は、Z会グループというところになります。エデュケーショナルネットワークですね。Z会という名前のほうがよく知られているかなと思いますけれども、そちらでやってもらっています。

中村： この参加状況はどのような状況なんですか。

麦田： 小学生の5・6年生定員45名、中学生は1～3年定員45名で、現在中学生は39～40あたりですね。まだちょっと定員になっていない状況です。小学生は22～23名で、まだまだ入る状況でございます。

中村： 実はこれ、初めて私知ったんです。区民センターですね、実施はね。小学生というと私どもは上福島小学校なんですよ。遠いんです、区民センター。その参加しているメンバーは、吉野とか大開の方の小学生だけではないかという感じがいたしまして、それで人数をお聞きしたんです。22～23名であるということは多分そうではないかと思うんですけども、上福島とか福島とか野田、それからちょっと遠いんですけども鷺洲あたりからの参加者というのはいらっしゃるのでしょうか。

麦田： 手元に参加名簿がないので、はっきりお答えできませんが、TERACO事業については全学校に案内を出しておりまして、参加を促しておるところです。小学生の場合は5時半から6時半までで、お迎えに来られている保護者さんもたくさんいらっしゃいますので必ずしも近いところの子どもたちばかりということではないと思います。

中村： これに限らず、どうしても上福島にいますので区役所が遠いとか区民センターが遠いということで、いつも気になっているんですよ。いろんな子ども支援とかやっただいていながらも、ちょっと気になっているところです。参加状況の中でどの地域の人たちが参加しているのかというのをちょっと把握していただいて、上福島とか遠方の参加状況が悪いということであれば一工夫いただきたいなと思います。以上です。

麦田： ありがとうございます。今データを見るができない状況なので状況を確認して、やっぱり遠かったら行きにくいのかなということでもた考えていかないといけないです。ただ、これはあくまでも学校が終わった後の塾であり、その中で TERACO は特に安く提供しておりますので、いろんな場所ですることができるというものではないのかなとは思いますが、現在の参加状況を確認させていただきます。

中村： ありがとうございます。

三木： ありがとうございます。それでは、事務局からまた後日、回答をお願いいたします。ほかに何かご意見ございませんでしょうか。山口委員、何かないですか。

山口： 今のところ大丈夫です。

三木： 宮本委員。

宮本： ないです。

三木： 小笠委員は、何かご質問はないですか。

小笠： 私は、2 番目の誰もが自分らしくいきいきと暮らされるまちづくりの中の「身近な相談窓口『みんなの相談室』、ちょっとした困りごとを有償ボランティアがサポートする『福島お助けネットワーク』という、私が思っている有償ボランティアのことなのか違う意味の有償ボランティアさんの話なのか、ちょっと分からないんですけど、有償ボランティアさんというのが自分の中でちょっと引っかかりました。やっぱり、困りごとを相談するというので、広く門戸を開いていただいて、無償というかたちにはならないのかなと思いましたのでちょっとお聞きしたいです。

三木： 福島お助けネットワークの有償ボランティアの件についてのご質問だと思います。これ何年も続いている事業ですけれども、このことについて、無償のボランティアのほうがいいんじゃないかというご意見です。事務局のどこでコメントしてもらいましょうか。

吉井： 保健福祉課長の吉井です。今のお尋ねでございますが、福島お助けネットワークは平成 25 年から始まっているので、もう 10 年近くになるんでしょうか。福島お助けネットワークという仕組み自体が、困っている方、例えば電球交換とか、ちょっとしたことをやるために電気屋さんとかでも高くつくとかなかなかどうしていいかというところで、そういうときにあらかじめ登録していただいたボランティアさんにそういった作業をしていただ

く。そういったときにちょっとしたお支払いで、例えば今 30 分 300 円というふうに決まっているんですが、そういう報酬の金額を決めておきまして、困ったときに頼んでそういう方に来ていただいて、それをチケットでお支払いするという仕組みでございます。福島お助けネットワークという仕組みの中で、助けてほしいとか、ちょっと困ったから助けに行こうとか、そういうのを広げていければ支え合いの社会が築けるのではないかという取り組みでございますので、その世界だけ有償でお願いしています。頼む側もちょっとしたお金はありますけれども、困ったときにはサポートしてもらえます。そういったところを、登録者も広げたいし利用者も広げたいしというふうに徐々に進めてきている次第です。今おっしゃっていただいた無償のボランティアにも当然活動いただいておりますし、ボランティア・市民活動センターとして区社協のほうでもそういったボランティア活動をいろいろ支援していただいております。そうしたボランティア活動が広がっていく中で、こうした有償の活動をきっかけにして、いろんなかたちのボランティア活動を広げることで、支え合いの社会を広げていきたいという取り組みです。なので、必ずしも全部有償にしようとか全部無償でということではなく、そういった有償の取り組みもありますよ、こういうかたちでボランティア活動どうですか、困っていたらちょっと相談してみませんか、そういうものでございますので引き続きこれも取り組みを広げていきたいなと思っております。

三木： ありがとうございます。小笠さん、今の説明どうでしょうか。

小笠： 分かりました。

三木： よろしいですか。過去に小地域ネットワーク活動というのがありまして、軽作業援助活動というやつがありました。我々地域の間が、先ほどおっしゃったように、電球の交換してくれないとか棚を吊りたいからちょっと手伝ってくれないとかいうところへ、私らも道具を預かりまして、依頼のあったところに。それは完全に無償で行っていたんです。それが発展してきて、頼むほうも、ただ頼むのはちょっと気が引ける。やるほうも、もともと無償でもいいのだけれども、時間を潰していくのにいくらかでもいただけたら。その要求をするのではなしに、そういうかたちでちょっとでもご費用がいただけたら動きやすいと。頼むほうも頼みやすい、受けるほうも受けやすいというようなかたちで、こういうふうなお助けネットワーク、有償のボランティアというかたちが生まれてきたようには、私の記憶の中ではあるんです。

中村委員、どうぞ。

中村： 今の件なんですけれども、たまたま私どもの近所の方が植木のことでお願いされたそうなんです。ただ、ろくに役に立たなかったと。もう 10 年くらいになるとおっしゃられたんで、この 10 年間で何か課題が発生しているとか改善すべき点があるとか、何か感じ

ておられるようなことがあればお聞きしたいなと思います。10年やっている、いろいろあったと思うんですね。それと、件数が増えていっているのか減っていっているのか、そんな点もちょっとお聞きしたいと思います。

三木： 吉井課長、お願いします。

吉井： 今のお尋ねでございますが、まず件数です。平成25年に始まって以来マッチング件数、助けてほしいという要望に対してサポートする方を派遣して活動してもらうことをマッチングというんですけど、その件数が大体1000件ぐらいになっていた時期が平成28～29年くらいですかね、始まってしばらくしてあったんです。それ以降、800件ぐらいで停滞している時期があり、そのうちコロナでぐっと落ちまして、その後、今また1000件近くまで来ております。ある程度浸透しているというところと、伸びてきているとまではいいませんがある程度皆さんご登録いただいて、サポーター側・利用者側、認識していただいている。さっきの電球交換だけじゃないですけど、買い物の同行であったりとか清掃みたいなことであったりとか、さまざまな活動、お助け項目があるんですけど、そうした中でご利用はいただいているとは思っています。

ただ、もう少し事業として拡大していきたいというのは、私が担当になってから課題として思っていることです。800件、1000件とはいいますが、まだもう少しですね。もっと増やすにはサポートする側のボランティアさん、サポーターといっていますが、サポーターにたくさん登録していただいて、いろんなニーズにこたえていくということが必要だと思うんですが、なかなかちょっと広がらない。なので、例えば一昨年、30分300円の一律メニューだったところ、30分600円、ちょっと高額ですがスキルのいる作業、車椅子補助であったり、ダンスをちょっと動かしたいとかテレビをちょっととか重たいものを移動する。部屋の模様替えの重たい作業とか、そんなのを30分600円としました。そうすることで報酬が上がりますので、サポーターさん増えないかなという取組みをしていたんですが、値段が上がることで利用が減ることはなかったんですけど、そんなに増えもしなかったので、あまり目立った効果が得られなかった。今後は30分300円、30分600円の報酬制度をもう少しサポーターの方にもご理解いただけるよう、そんな高額ではございませんが報酬についても理解していただけるよう、改めて広報誌などでも特集や写真を載せたりしていきたい。広報を充実させることで、もう少し浸透を図りたいというふうに思っています。事業として続いてはきていますが、利用者側・サポート側、皆さんが身近に感じていただいて、困ったときに頼もうと思っていただけるようにさらに浸透を図っていかないと、せつかくのいい事業なのに。評価をいただいているところはあるんですけど、もう少しその拡大を図るのが今の課題と思っています。

三木： ありがとうございます。中村委員、今の回答で。業者に頼むほどでもないし、かと

いって自分でできないしというようなところの隙間を埋めるような制度だと思います。課長も言われましたけれども、マッチング件数が減ったというよりもこの活動自体、コロナで停止しておられたんですよね。そのときは、我々民生委員のところから依頼がありまして、誰々さんのところに行ってくれないかと。それは完全に無償で動いていたんですけれども、何回かそういうような経験があります。なかなかいい制度だと思いますので、課長おっしゃいますように、もうちょっと拡充できたらなと思っていますところでは。

ほかに何かございますか。山口委員、お願いします。

山口： 公募委員の山口です。資料の 2 ページの大阪・関西万博の件です。これからなので、いろいろ告知とか周知活動があったりとかしていくんだと思うんですけれども、そもそも万博って何って思っている人たちがたくさんいらっしゃるのではないかなと思うんです。なので、区役所として、この関西万博に対してみんなが興味を持ってもらえるような取組みをされるのであれば教えてほしいです。

三木： ご回答、よろしく申し上げます。

谷口： 企画総務課長の谷口でございます。万博について区役所で機運醸成を、区役所だけではなくて大阪市全体、大阪府全体、日本全体で、というふうな取組みをやっていこうということになっております。福島区役所としては、あまりまだ皆さん、まだお目にかかってないかもしれませんが、いろいろと庁舎の中の飾りつけなどをやっていっています。

山口： あそこの。

谷口： ありがとうございます。そういう、ちょっと地道といえば地道な活動をしております。来年度はもうあと 1 年になるということで、もともと万博協会とか万博推進局という部署なんかで、万博の意義というのを一生懸命宣伝はしておるんですが、そういうところを区役所としても一緒にサポートして、そういう万博の意義というものを、宣伝していきたいというふうに思っております。また、10 月に区民まつりがありますが、その時も万博、また SDGs も区役所としては推進しております、万博とか SDGs を宣伝するブースも設けていく予定にしております。ですので、皆さん、区民まつりに来られたときにはそのブースも覗いていただければありがたいかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

三木： ありがとうございます。山口委員は、そもそも何なんだっていうね。

山口： そうです。子どもに説明がうまくできなかった。

三木： 過去に私たちも何回か、有名な50何年前の大阪万博から、沖縄博だとか神戸博だとか色々経験してきています。一番直近で愛知博かその前の大阪の花博か、そういうかたちで経験はあるんですけど、若い方や子どもさんには経験がない。そもそも万国博覧会って何だという、そういうことももっとPRしてもいいかなと思います。なかなか貴重なご意見ありがとうございました。

ほかに何かございせんか。最初に話がありました、令和6年度の事業計画案策定に向けてのご意見も何かあれば。5年度ばかりでなく、6年度についても何かご意見・ご提案・ご注文等あれば、どなたかご発言願えましたらありがたいです。私たちの任期も一応ありますので、6年度に向けて、国も市も地域も6年度の計画をぼちぼち立てないといけない時分になっております。何かそういうような要望でもあれば、ご提案いただけましたらありがたいですが。

中村： 経営課題ごとの取組みの内容でもいいですか。

三木： 次の資料のほうですか。資料5ですね。結構だと思います。

中村： ちょっと細かい点ですけども、2~3お伺いしたいと思います。まず、経営課題2の安心・安全なまちづくりの中の令和5年度の主な取組みの中で、中学生体験学習事業というのがありますよね。これは多分、東北のほうに行かれるやつですよ。予算的には220~230万円かかっておられるんですけども、確かこれは地域からもお金を出してくれとか言われて出したりしているんですけども、この項目の中でもちょっと突出した金額です。9名の方が行かれるのは非常に良い経験だとは思いますが、ちょっとお金かけ過ぎじゃないかなと。そんなこと言うなといわれるかもしれないけれども、中学生がよい体験するのにお金のことで文句言うなと言われるかもしれないけれども、ちょっとお金かけ過ぎじゃないかなと思います。ちょっといいホテルとか使っているのかなと思ったりしています。

それと、続けて申し上げたいと思います。5番です。「『のだふじ巡り』など区の特性を活かしたイベントの実施」と、1,923万円使っているんですね。これは、のだふじ以外のほかのイベントも込みの予算なのか。例えば、のだふじ巡り以外でいろんなイベントをしている、それも全部含めてこの金額だということであれば、イベントごとの金額を教えてくださいなと思います。のだふじ巡りだけにこれだけのお金をかけるというのもちょっと疑問です。しかも、のだふじ巡りというのは、私前々から思っていたんですけども、のだふじの会の人たちが一生懸命やっている。のだふじの会以外の地域のいろいろな人が、のだふじ巡りのときに何か、ボランティアでといったらおかしいですけども、いろいろお手伝いしたり来た人たちを案内するとか。というのは、あの時期に歩いていると聞かれるんですよ。例えば郵便局で、藤がいいところがあると聞くけれども、どこですかと聞かれたりして、一応説明するんですけど、間違って説明して迷惑をかけたこともあるんですよ。そう

いうメジャーな一部の人をちょっと増やすとかいうのを、のだふじの会の人たちだけが一生懸命やっているというイメージが強い。反面、そういう意味でのだふじの会の人たちはいぼっているなというような印象も持っているんですけども、要するに、もうちょっと工夫したらいいんじゃないかと思う点。それと、先ほど言いましたように、ほかのイベントの金額も入っているのかどうか教えていただけたらと思います。以上です。

三木： 2点、中村委員からの質問がありました。中学生の体験学習事業と、のだふじ巡りなど書いていますので、限定はされていないかと思うんですが。保健福祉・総務部会の議題ともちょっと外れるかと思うので、区役所の担当、違うと思いますけれど、もしもお答えできれば答えていただいて、できなければ担当部署のほうからまた回答していただけたらと思います。いかがでしょうかね。

麦田： 中学生の体験学習事業については、私のところで担当しております。

中学生は3校から生徒の代表が3人ずつ9名と、それから学校の先生3人が付添い。それから、区役所の職員、この事業の担当者と防災の担当者がついております。ハイシーズンの8月の2泊3日で、現地で盛りだくさんのプログラムを組んだ行程になっております。現地の人からお話を聞いたり施設を見学したりとか、いろいろですね。子どもたちがちゃんと安全に過ごせるホテルですが、豪華なホテルなんて、そんなことは全然ありません。今日までに2校、区長に今回の報告に来ていただきました。生徒の感想は、この素晴らしい体験をありがとうございます、中学で一番の思い出になりましたという生徒もいて。年数が経過して東日本大震災のことが、忘れられていきそうだけれども、自分たちでしっかり見て、これは絶対に忘れたら駄目だ、伝えていかなくてはいけない、地域にもしっかり伝えていきたいと。現地でお話を聞いたり担当することにより、助け合うことも大事、自分の身を守ることも大事、そして命の大切さというのも学んでもらっております。ここで学んだことを学校や地域で発表し、他の生徒や地域とも共有してもらっております。なので、私個人の意見としては、これは適当な値段だと思っております。

今年からはSDGsの内容も取り入れており、これからの自分たちの未来についても学んでもらえるように進めていきたいと思っております。

中村： いっぱい寄附はしますんで。

麦田： 楽しみに待っております。寄附も、やはり地域の方から支えられている、地域の方にみんなで送り出してもらえているというのも中学生たちには分かっているし、感謝もしているし、これがすごくいいつながりになっているなと思っております。寄附のほうも楽しみにしておりますので、よろしくお願ひします。

中村： 福島区の9名が単独で動いているような雰囲気とするんですけども、これをやるときにほかの地域の方も、そういう体験とかやっているような地域とかあるんですか。というのは、福島区の生徒だけがいろいろ行って他区の生徒たちと話し合ったりするのもいいんですけども、ほかの地域の中学生の方も一緒に入ってきてというようなことも、企画されるような予定はないのかということだけお聞きしたいです。

麦田： 私としては、福島区の中学生を行かせたいので、他の区の生徒を参加させるつもりはございません。

中村： 分かりました。ありがとうございます。

三木： のだふじ巡りの件は。澤田課長、お願いします。

澤田： 魅力あふれるまちづくりに関する事業費の内訳について、私から説明させていただきます。一応、その運営方針上、のだふじ巡りなど区の特性を活かしたイベントを実施というかたちを代表して、のだふじ巡りの名前を使わせていただいているのは、やはり区内の認知度が高く、ホームページなどでご覧いただいた時にのだふじ巡りみたいな、イベントがあったなというのをいろんな方に見ただけのように、あくまで代表例としてののだふじ巡りを書かせていただいています。

実際にのだふじ巡りの費用として年間予算上いくらかかっているかということ、見どころマップの印刷代などで20～30万程度と、下福島公園で実施しているのだふじまつりの分担金として100万円の、約130万程度がのだふじ巡りそのものの費用となっております。なぜ1,900万も金額があるのかということ、ほぼ、皆様あまりご存知じゃないのかもしれませんが、海の駅という、中央卸売市場前港のところに船を浮かべて水辺の活性化・水辺のにぎわいを作っていくという事業をやっています。そちらの事業で、金額としてはかなり大きくて1,600万くらいの金額があるんです。ただ、この1,600万円の予算のうち、1,500万円くらいは事業者が負担して区役所にお金を払っているので、実質的には、区役所が税金を使って負担しているのは実際100万円程度の金額です。なので、あまり大阪市の税金を使っている部分はあまり金額的に大きなものではございません。ほかに、この1,900万円の中に何が入っているかといいますと、こちらは福島・上福島地域の方はご存知かもしれませんが、ふくしまてんこもりという、グルメであるとか安全・安心なまちづくりというのをPRするイベントですね。こちらも大体100万円使っております。ほかはそんなに、大きなイベントとしてお金を使っているものがなくて。例えば、先ほどののだふじ巡りをもうちょっとうまいことをやったらいいんじゃないかということでご意見いただいたんですけども、のだふじ巡りの期間内でしたら、例えばライオンズクラブさんの活動としてウォーキングスタンプラリーみたいな事業をやっていたりしています。

見どころの説明とか何かした方がいいんじゃないかというのもごもっともなんですけれども、なかなか職員の人数もそれほど多くなくて、見どころの案内までは手が回っていない状況でございます。のだふじの会の皆様にもいろいろご協力いただいているんですけれども、できることという、あんまり人が案内するというのは多分難しいのかなと思うので、ちょっと案内板みたいなのを、本当に実現できるか分からないんですけれども、のだふじの歴史とかを藤棚の前に設置するとかができたらいいなとは思っております。以上でございます。

三木： ありがとうございます。中村委員、今の答えで。はい、ありがとうございます。

ほかには何かないでしょうか。ぼちぼちご意見もだいたい集約してきたようなんですけれども、もう皆さんよろしいですか。宮本委員は。

宮本： いいえ。

三木： 小笠さんはよろしいですか。それでは、とりあえず一旦この件につきまして終わります。

三木： 引き続き、福島区の地域福祉に関する検討状況報告について事務局より説明をお願いいたします。

吉井： 保健福祉課長、吉井です。私から、資料6、地域福祉に関する検討状況を報告させていただきます。見慣れない資料だと思いますし、何だという感じだと思うんですけれども、元は昨年の保健福祉・総務部会のご報告した、地域福祉の推進体制ですね。これを再構築しますという、地域支援システムとやってきた会議が、今一つうまくいっていないので再構築させてくださいというお話をさせていただきました。そのときに、会議の名前を変えたりしますので、改めて翌年以降、福祉関係としてやっている会議の報告を区政会議の場でさせていただきたいということをご報告させていただきました。今回がその1発目になるんですが、こんな感じで報告させていただければどうかなという感じで、まとめさせていただいております。主に、子育ての支援会議、障がい者の支援会議、高齢者の支援会議。そういう3種類の会議体で、2回から4~5回やっていますので、その会議の検討状況を皆さんにお伝えしたいという趣旨でございます。

まず、1点目です。区の福祉関係データとしまして、ちょっと現状のデータをまとめました。福島区、左上のところですね、別紙1ですが、福島区の人口が増えてきている中で、特に高齢者人口はそう増加しているわけでもない。ですが、子どもさんですね、15歳以下、0~14歳の年齢がだいぶ増えてきたということと、中間層ですね、15~64歳の年齢が増えている。それにしただがって、高齢化率は少しずつ下がってきている状況です。高齢者が

減っているということではなくて、高齢者以上に、それ以下の世代の方が増えているというのが今の福島区の状況です。

その下、認知症高齢者等の数です。高齢化率がちょっとずつ減っているということは問題ないですけど、今特に課題となっているのは、認知症の方が増えているということです。これはあくまで要介護認定の数字ではあるんですが、要介護認定されている方の人数が年々推移する中で、ちょっと黒いところですね、Ⅱの方、認知症の高齢者にあたる方が増えつつある状況でございます。これは年々、高齢者人口の数字は変わりませんが、平均年齢が少しずつ上がってきておりますので、そうしたことも関連しているかと思えます。

右上のところ、障がい者の手帳の所持者数の推移です。グラフとしては少し、31～32年、手帳数を整理したところで変わっている部分がありますが、全体に微増というところです。身体障がいの数はそう変わりませんが、知的障がい、精神障がいの手帳の所持者数がやや増えてきている傾向にあります。

右下のところ、出生率です。この間、平成12年からですが、福島区は大変高い状態で推移しております。お子さんが増えてきていて、一時期は保育所がなかなかないという時期もございました。全国平均、大阪市平均よりも高い率で推移している状況です。

こうした背景の下、資料6に戻っていただきまして、各支援会議の検討状況ということで、ざっと状況をご説明します。子育て支援会議は年に1回か2回開催しております。今年度開催した子育て支援会議では、要保護児童対策地域協議会の代表者会議と兼ねてやっているものですから、そちらの実績報告などもしておりますし、ひとり親家庭の支援部会とも兼ねていますので、ひとり親家庭に対する自立支援事業などについて子育て支援機関の関係者の皆様にも情報提供しております。3点目に講演となっておりますが、子ども基本法が制定されたことを受けて、スーパーバイザーを呼びまして講演会を開催しております。子ども支援の関係機関を集めてそうした会議を行っております。

続きまして、資料の裏面ですね。障がい者支援会議です。地域自立支援協議会として開催しておりますが、年に4回か5回開催です。昨年度からの主な内容を書いておりますが、障がい者支援に関する広報啓発などに取り組んでいます。特に4年11月の会議では、広報ふくしまの特集記事として、基幹相談支援センターの紹介など大きめに記事を掲載しまして、周知を図っております。その枠の4点目に、障がい者スポーツ（ポッチャ体験会）報告とありますが、昨年度から障がい者スポーツの取組みを進めております。健康展のときにポッチャ体験会を開催して、60人ほど来ていただきましたが、今年も10月21日に、健康展に合わせてポッチャ体験会を開催していきます。よろしければ見に来ていただければと思います。そのほか、研修であったり、啓発関係であったりの検討をしております。7月12日、この夏開催した第2回の、4つ目の枠のところでは、ヒューマンシアターでの啓発・物販であるとか、区民まつりに出展させていただいての啓発とか、そうした活動を続けております。

3つ目、高齢者支援会議です。これは生活支援体制整備事業という、あいあいセンターの区社協が中心となって、我々区役所や地域の方、関係機関で開催している会議です。こちら

ではグループワークなどもしながら、高齢者に関する課題を検討しております。例えば、4年11月の会議では男性高齢者の居場所づくりについて、関係機関でグループワークをしました。地域の食事サービスであったり百歳体操とか、いろいろ居場所を作っていただいているのですが、なかなか男性の高齢者の方のご参加が少ないというのが課題です。男性向けの体操教室とか、区社協として開催していただいているのですがなかなか参加がはかばかしくないと、どうしていったらいいかというのを関係者で検討するというような取り組みを行っております。そのほか、いきいきウォークですね。ウォーキングで皆さんに参加いただいたりということで、居場所づくり・つながりづくりの活動について報告がありました。

この中で2点目、第4回、5年3月のところに、地域ケア推進会議で検討された地域課題という報告がございました。これは別紙2としてつけさせていただいております。これまで毎年度6月の区政会議の場で報告させていただいた内容ですが、福島区としての高齢者支援の課題として今後はこの部会でご説明したいと思っております。令和4年度の地域ケア推進会議で検討された地域課題ということで、介護保険制度の中で個別のケース検討を重ねた上で、さらに区の課題というものをあぶり出して、それを検討するというようになっております。令和4年度は、上福島のほうで、グループワークで地域の方を中心に課題抽出を行って、それが課題2のほうにだいたい反映されていますが、そうした進め方により課題を抽出しております。

課題の1点目は、複合的な問題を抱える高齢者世帯が最近増加しているということを挙げています。8050とかよくいわれていますが、高齢者とそのお子さん、障がいを抱えるお子さんとの世帯だったり、ごみ屋敷だったり、単純に高齢者支援というかたちでは支援し切れないことがございます。複合的な問題を抱える世帯が増加している。そうしたことの解決策に向けては、世帯として支援していくことが必要で、医療・福祉関係機関とか地域との連携を強化して対応していく必要があるということです。2点目なんですけど、マンション住まいの高齢者が増えておまして、特に独居高齢者が孤立化しやすい状況にあるということも挙げております。上福島で特にいわれていましたのは、オフィスや飲食店などにぎやかな地域でもありますが、マンションに一人暮らしの高齢者の方が結構いらっしゃるということで、そういう方が孤立しがちなことが問題ではないかということです。

そうした課題に対する取り組みとして、その下に書かせていただいておりますが、高齢者が孤立しないようにつながりづくり・見守り体制づくりに向けた支援が必要ということ。もう1つは、マンションへのアプローチですね。管理人とか、特に区社協ではURなどとも連携しておりますが、管理人・居住者との関係づくりですね。マンション全体のケアをしていくというふうなかたちで、連携を強化していく必要があるということをお知らせとして記載しております。資料のご報告は以上でございます。

福祉関係の会議が今まで、この令和4年に限らず、ずっと取り組みが続いてきています。こうした課題検討の状況を区政会議の場でもお伝えしたいということでございます。説明は以上です。

三木： ありがとうございます。それでは、ただいま説明のありました内容について、何か質問やご意見がある方はご発言をお願いいたします。同じように、挙手をしてお名前をおっしゃってから発言していただきますようお願いいたします。何かございませんでしょうか。

上福島の地域でのグループワークがありました。中村委員、この上福島でのグループワークには出席されていないですか。その時の話とか問題点について、何かご発言いただけましたらありがたいです。

中村： 岡田さんとか出たあれですか。

三木： 鷺洲は前にやったんですよ。民生委員会であるとか連合長会であるとか女性会であるとかという中で話したんですけども、上福島は。

中村： 上福島は、女性会のほうでやっているかもしれないですし、民生委員の方が集まってやっているかもしれない。ちょっと私のほうは、町会長の中での話のグループワークというのは、まだないですね。

三木： そうですか。

中村： 女性会から嫌われているかどうか分からないですけども、ちょっと私はその辺のグループワークに入ってないです。もし入っていたら、うるさいと言われて追い出されるかもしれないです。

三木： 分かりました。上福島も鷺洲もそうなんですけれど、マンションが非常にたくさん、できすぎるくらいできまして、地域の課題にもなっているんです。私らの高齢者の見守り活動の中でも、マンションというのが1つの課題になっております。どうしても中へアクセスしにくいというのがあって。小笠委員、海老江西のほうではどんな感じですかね。マンションとか、今後の福祉課題で。

小笠： 海老江西は比較的、ほかの地域に比べたら、マンションはありますけど背の高いマンションはほとんどありません。あんまりそこまで話はないです。

三木： そうですか。ありがとうございます。宮本委員は何か。

宮本： マンションに住んでらっしゃる方って比較的、若いうちからあんまり人と接したりしなくて。だから、若いうちからどんどん作らないと、いろんなことに参加していただかな

いと、年いってから何とかならないかと言われても。もともと周りに接するのが嫌で、回覧板も嫌だし、ゴミ出しの日にちが決まっているのも嫌だしで、マンションに暮らしていらっしゃる方が多かったからね。どうしたらいいんですかね。近くの子どもさんとかに見ていただかないと分からない。1人でいらっしゃるかどうか、本当に分からない。

三木： 前から、マンション等、いわゆる見えないお年寄り・高齢者というのが私らもずっと課題になっています。今いよいよ、私らの地域でマンションとつながりを作って地域の活動にも参加してもらうかたちは大分取れてきているのですけれども、それでも中身が分からないのが現状ですね。

宮本： 地域と接しようという気持ちが、あんまり。会議とかもあるんですけど、あんまり参加される方は少ないです、マンションの方は。

三木： はい、中村委員。

中村： 三木委員は鷺洲ですよ。鷺洲のコーヨーの向こうの高いマンション。

三木： 前のミズノのところですかね。

中村： それと、イオンのほうに行く。あそこは海老江になるのかな。

三木： イオンのところは、ジオは海老江東ですね。

中村： ああ、なるほどね。イオンのところに行く道の、セブンイレブンの手前のマンションは、鷺洲ですよ。公団がいっぱいあって、ちょっと向こう側に高いのが建っていますよね。

三木： ああ、ガーデンズタワー。

中村： あれも鷺洲ですよ。ああいう高層マンションというのは、どうなんですか。普通の10階建てや15階建てのマンションと違って、40階とか、あんなマンションの住民というのは金持ちなんです。ああいうマンションというのは、どんなふうにアプローチとか考えておられます。

三木： 鷺洲の現状をお話しさせていただきますと、先ほど出ましたシティタワー大阪福島という37階建て、約340~350世帯入っているんですかね。ミズノの跡のマンション。ここ

はシティタワー大阪福島ということで、1つ町会できています。我々はシティタワー町会という言い方をしてますけれども、町会長さんも出て、町会長会議にも出ておられます。

昔、日立物流の跡の福島ガーデンズタワー、公団の横にある。あれも37階建てで同じくらいの世帯数があるんですけども、ここは町会組織には基本的には加入されていません。中に一部、住んでおられる方で、鷺洲でいうと中2町会というところのエリアなんで、そこへ若干の軒数ですけども加入されている方はおられますけれども、基本的には町会組織はないです。

それと、福島スカイハイツ、鷺洲の交差点のところ。これは昔からある、40年以上のマンションです。ここは1つ町会があります。

塩野義の跡、リバーガーデン福島木漏れ日の丘、850世帯。これは鷺洲で、私が町会長やっています鷺洲上2・3町会に入られました。はじめ、連合町会長や区役所なんかと一緒に協力してもらって、1つ町会を作ったらどうかということでアプローチしたんですけども、町会は作れないから入れてくれということになりまして、町会員を募集して850世帯のうちの今大体560世帯くらい、6割くらいが加入していただいて、町会費も私のところの町会にいただいています。それで、実際コロナでなかなか活動はできなかったんですけど、去年あたりからアプローチしてお祭りに参加していただいたり、いろんな行事にも案内かけて、結構な参加をいただいています。また、そこから町会担当の役員さんも出ていただいてというかたち。ちょうどスタートしたところですのでこれから先どうなるか分かりませんが、結構なことで動きは始まっています。

あと、ワンルームマンションなんかは、町会への加入率はほぼゼロに等しいですね。

鷺洲の現状はそんな感じです。上福島は結構高層もありますけど、どんな感じかなと思って見ているところです。福祉課題の中で、この見えない高齢者というかたちで、実際このマンションの850世帯の中でも高齢者どこまでおられるか全然分かっていないです。

今の問題についてほかにご意見ございませんようでしたら、ぼちぼちこれも締めたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、今日たくさんのご意見いただきましてありがとうございます。以上で、本日の議事を終了したいと存じます。委員の皆様には円滑な議事の進行にご協力いただき本当にありがとうございます。それでは、事務連絡があるようですので、事務局に進行をお返しいたします。

谷口： 三木議長、ありがとうございます。委員の皆様も、長時間にわたりたくさんのご意見をありがとうございました。

それでは議題3、その他ということで、事務連絡をさせていただきます。委員の皆様のお手元に黄色の用紙の区政会議に関するアンケートと、水色の用紙の区政会議保健福祉・総務部会に関するアンケートを配付させていただいております。用紙のほう、ありますか。それでは、これから5分ほど時間を取らせていただきまして、アンケートのご記入をよろしく

お願いいたします。

アンケートのご記入、ありがとうございます。ご記入済みのアンケート用紙につきましては、そのまま机の上に置いていただいて結構です。まだご記入がお済みでない方につきましては、会議終わりまでにご記入いただければありがたいです。

次に、第2回の福島区政会議の全体会ですが、10月の下旬から11月上旬で開催したいと考えております。委員の皆様の任期が、先ほどもございましたように、9月末日までとなっておりますので、今回の部会で最後の参加となる委員の方々もおられますが、改選後、改めて委員にご就任していただく方につきましては、改めてご案内をさせていただきますので、どうぞご参加よろしくをお願いいたします。それでは、本日助言者としてお越しいただいております大阪市議員の太田議員から、一言ご助言、またはご感想などございましたら頂戴したいと存じます。太田議員、よろしく申し上げます。

太田： 今日ありがとうございます。山口さんが万博のことを言うてくださったんですけども、普段お子様と色々な活動されていると思うんですけども、ぜひちょっと言ってあげてほしいことがあります。まず、空飛ぶ車。まだ全然人が乗れるものかどうかという状態なんで、ぶっちゃけ分からないらしいんですけども、でも例えばタクシーみたいな乗り物がみんな乗れて、そしてそれがふわっと空を飛ぶ。万博のリングっていう大きな建物が12メートルあるんですよ。小学校の屋上よりも高いくらいの建物で、それがぐるっと輪になって、直径が600メートルだといいます。小学校のグラウンドの何十倍もあるような広いところで、そこにひょっとしたら、タクシーに乗るような感覚で空を飛べるような、そんな乗り物が万博には何かあるらしいと。ただ、今作っているそうだから、乗れるかどうか分からないけれど。大阪市会の中でも万博の特別委員会というのがありまして、今そういう実験しているところだろうからまだまだ無理なのかもしれないけど、無理は承知で、子どもたちが乗れるような、たとえ3分でも1分でもいいから、乗ってちょっと浮いてくるだけでもいい。そんなのをやってくれたら、子どもたちも楽しくて、お父さんお母さんも並んでも行こうかとなるのではないですかと。できれば、医療的ケアが必要な子どもとか普段車椅子で移動を制限されているような子どもたちも。本当に、たとえ1台だけでもいいから、そんな機体を作ってくれるようにメーカーの人に頼んでくださいというようなことを言ったんですね。まだまだそんな状況じゃないというのは当然言われたんですけども、そうやって、そんなのあるかもしれないよ、それが万博ということらしいよと言ってあげたらどうかなと思います。花博のときは、ポマトといってトマトの根っこにポテトができる、そんなのがあったといいます。名古屋の愛・地球博、あのときはマンモスの化石が出ましたね。だから、その当時その時々、世界中から一番新しい発見とか新しい技術というのが持ち寄られるっていうすごい博覧会なんだよと。それで、今度は空飛ぶ車。要するに人が乗れるドローンだけでも、乗れたらいいね、楽しみだねと言ってあげてください。そうしたら、子どもらはそうかってなると思います。

中村： 高齢者への入場優待とかあるんですか。

太田： 市バスとかのような、あんな優待はなかったと思います。けれども、一番高いのが7千なんぼとかいっていますけれども、前売りだったらもっとぐっと安いですしね。でも、高齢者優待、ちょっとまた調べておきます。ちゃんと調べてまたお返事します。大阪府下の子どもは1回無料なんですよね、確か。2回目も3回目もどうなんだみたいなことをいいますよね。そんな1回じゃ回り切れないからみたいなこといっていますので。乞うご期待の万国博覧会でございます。皆さんもまた、それぞれのところで子どもたちと話す機会があったら、空飛ぶ車に乗りたい人(手を挙げて)！とか言ってくれたら子どもたちは大盛り上がりだと思いますので、お願いいたします。以上です。ありがとうございます。

谷口： ありがとうございます。最後になりましたが、本日お越しいただいておりますオブザーバーを代表しまして、大阪府議会議員の橋本議員より一言ご意見などございましたら頂戴したいと存じます。橋本議員、よろしくお願いいたします。

橋本： 皆様、お疲れ様でございます。府会議員の橋本でございます。前回の第1回全体会議に参加させていただきまして、本当に委員の皆様と理事者の皆様の活発な議論を拝見させていただきました。その中で、大阪府としてどういうことができるかというところで、子どもの学力向上に向けて、学力と体力というのは相関性があると。勉強できる子は体力もある。で、体力のある子は朝食の摂取率が非常に高い。この3つが連動していて、大阪の子は、学力はちょっと上がってきているんですけど体力が小学生男子45位、女子が44位と極めて低い。それで、朝食の摂取率が43位であるというところ。これ、前回の全体会議を見させてもらった後に色々調べまして、府として早速動かしていこうかなというところでございます。非常にこの区政会議というのは実りのある色々な情報を知ることができる会議で、非常に貴重なことでございます。

1つだけちょっと質問があります。この資料5の経営課題3、小・中学生の基礎学力向上授業の今年度予算が1,000円になっているというのが、何か数字がおかしくなっているのか、そもそもこの1,000円なのかなという。

麦田： これですね、去年度までは小学校の放課後学習支援事業というものをやっていた。去年はイングという塾の事業者に、学校で放課後そういう補習授業をしてもらっていたんです。けれども、今年度から大阪市の教育振興基本計画というのが新しくなりまして、学力の向上ということでいろいろ取り組まれています。例えば、スクールアドバイザーができたりとか、指導主事が訪問して授業力向上したりとか、本当にそういうきめ細かい学習支援というのを市の教育委員会のほうでするようになりました。なので、福島区としては学校の

校内ではなく、先ほどご説明した TERACO というかたちで、学校外で勉強してもらおうという。TERACO というのが、去年までは中学生だけだったんですけれども、今年から小学生に拡充してこれを引き継いでいこうというかたちになっています。予算は大幅に減っているんですけれども、その分、大阪市の教育委員会本体のほうが学力向上に取り組んで、それ以外の部分というのは TERACO で引き受けているというかたちでございます。

TERACO 自体は別に委託をしているわけではなくて協定ということで、授業料の徴収とか運営というのは、エデュケーションネットワークというところがやっています。区役所は、区民センターという場所を提供しているというだけでございますので、金額的には委託料ではなくなっておりますので、こういう金額になっているというものでございます。間違いではありません。長々と失礼いたしました。

橋本： とんでもない。この 1,000 円が一体何に使われてるのかなと気になりながらも、基礎学力向上事業をしっかりと、市と協力しながら進めてまいりたいと思っております。本日はありがとうございました。

谷口： ありがとうございました。ほかのオブザーバーの方、何かございましたらと思いますが、特に何もありませんか。

それでは、本日の予定につきましてはこれで終了となります。なお、冒頭で申し上げましたように、本日の議事につきましては会議録を公表いたしますので、ご発言の皆様には、後日会議録の内容を確認いただきますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。それでは、最後に深津区長からご挨拶を申し上げます。

深津： 皆さん、いろいろなご意見ありがとうございました。私なりに気づいたことについて、ちょっとコメントをさせていただきたいと思っております。

まず、有償ボランティアの話なんですけれども、確かに一般的なボランティアのイメージとは異なります。けれども、先ほど三木議長の方からご説明いただきました、分かりやすい説明だったと思うんですけれども、業者に頼むほどではないけれども自分でやるにはなかなか難しい日常的な作業なんかを、やるほうも頼むほうも気兼ねなく、簡単に言いますと割り切ったかたちでお願いできるボランティアの 1 つとして、有償というかたちを取っているということで思っておりますといいかなと。やはり、有償のボランティアというのは、やはり私が聞いているところによりますと、頼むほうがちょっと気兼ねすることもあるし、やるほうがちょっと中途半端になるというようなこともあります。なので、こういう有償ボランティアというのも事業を的確に進めていく上ではいい方法かなというふうに思っております。

それから、中学生の体験事業でございます。例えば、防災ですとか SDGs の関係なんかですけれども、大人の方への啓発というのはもちろん大事なんです。けれども、自論として思

っていますのは、やはりこれからの将来、社会を担っていく子どもたちが、SDGs にしても防災についても我が事として感じていることが一番大事なのではないかと。私はそういうことで、極端なことを言いますと、この体験学習は中学生の意識改革のための事業だというふうに思っております。ご指摘のように、引き続き経費についてはやはり精査をしていく必要があるかなというふうに思いますけれども、この看板事業といいますか目玉事業の 1 つでございますので、これからも地域の皆様とともに大切に育てていきたいなというふうに感じております。

それからもう 1 点、山口委員からの、これはもう非常に私たちもお答えしにくいテーマです。けれども、先ほど太田先生からありましたように、これからもうちょっと万博事業が、例えば建設が進んで、事業の中身もどんどんこれから外へ出て行って PR されるようになります。ですから、時間が経てばもうちょっと具体的なイメージを持って子どもさんにも分かってもらえるようになっていくんじゃないかなと期待しております。私も 50 年前の経験ですけれども、やっぱり建物とか、人間洗濯機とかテレビ電話というものがあるよということを見て学校で話したりする中で、だんだん万博というのはこういうものかというイメージができてきて、行ってみたいなという気持ちになったという覚えがあります。なので、もうちょっとお時間いただけたら、もうちょっと話しやすくなるのではないかなというふうに思っています。ちょっと建設が遅れていますし、万博そのものの PR も遅れているようですので、今年も引き続き分かりやすい PR といいですか、広報に努めていくのが必要じゃないかなというふうに思っているところでございますので、またよろしく願いいたします。

私の感想も込めて申し上げましたけれども、閉会に当たりまして、最後に一言お礼を申し上げたいと思います。委員の皆様には貴重なご意見、いろいろありがとうございました。頂戴いたしました意見は、今後の区政運営に生かしてまいりたいと考えております。また、冒頭にも申し上げましたように、今期で退任されます委員の皆様には、長きにわたりまして区政運営にご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。今後も大阪市政・福島区政にご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いしたいと思います。一方で、来期も区政会議委員にご就任いただきます皆様におかれましては、引き続きお力添えをいただきますよう改めてよろしく願いしたいと思います。本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。どうぞお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

谷口： それではこれもちまして、本日の保健福祉・総務部会を終了させていただきます。皆さん、どうも長時間ありがとうございました。